

平成25年度 第4回理事会

日 時 平成25年8月7日（水） 15:30～

場 所 特別会議室

I. 議 題

1. 運営費交付金債務（繰越金）の使途について

II. 報 告

1. 平成25年度10月期研究職員の採用について
2. 森林農地整備センター平成26年度職員採用二次試験結果について
3. 四国支所の監事監査報告について
4. その他

資 料

- I－1 運営費交付金債務（繰越金）の使途について（案）
- II－1 研究職員公募一覧表（平成25年10月）等
- II－2 主要行事（2013年7月4日～8月6日）

運営費交付金債務（繰越金）の使途について（案）

1 経緯

- (1) 毎年度の運営費交付金に残余が生じた場合は、中期計画期間中は、それを翌年度に繰り越し、その累計を貸借対照表における運営費交付金債務として計上している。
- (2) ただし、前中期計画までの間は、林野分科会における財政の評価は決算額をもつて行うよう林野庁から指示があったことから、繰越金を使用した場合、対前年度業務費 1 %・一般管理費 3 % 減という目標を達成できない形となるため、使用しないこととして運用し、中期計画終了時において余剰金として国へ返納した。
- (3) 第三期中期計画においては、この点について林野庁の了解を得、決算額ではなく予算額での評価とするよう改善され、繰越金の使用条件は整ったところである。
- (4) 平成 23 年度の繰越金は額が大きくなかったため、そのまま繰り越し、平成 25 年度に 5,368 万円となったため、今後、計画的に使用することとする。

2 使途の考え方

- (1) 繰越金は、前年度の決算の結果によって額が確定するものであり、当初予算において執行を見込むことはできない。
- (2) また、繰越金の使途については、制度上、当年度の運営費交付金を原資とするものと厳密に区分することとはされていないが、当初予算の積算に組み込んでいなかったものとしての性格上、決算等に関連して実績の説明を求められる可能性がある。
- (3) このため、繰越金は、優先度は相対的に高いものの、当初予算に計上するになじまないもの（当初予算に計上してしかるべきものとは区分できる性格のもの）であって、相当額を要する規模のものとして対外的に説明可能なものに充当することが適当と考えられる。
- (4) 特に、近年、一般管理費予算は対前年度 3 % 削減という方針の下、光熱水料等の恒常的な義務的経費以外を当初予算に計上することができず、施設費も使途が限定される情勢が継続していることから、当面は、一般管理費及び施設費に該当する義務的な支出であって、予算的制約から計画できなかったものに充てることとする。

3 平成 25 年度以降の使途

- | | |
|-----------------------------|-----------|
| (1) 施設改修に伴う PCB を含むトランス等の廃棄 | 2, 880 万円 |
| (2) 人事給与システムの更新 | 1, 300 万円 |
| (3) 老朽施設の取り壊し | 680 万円 |
| (4) 業務用パソコン（WindowsXP 対応）更新 | 400 万円 |

(平成 25 年度の繰越金の使途について)

1 施設改修に伴う PCB を含むトランス等の廃棄

当所の施設改修等において PCB を含むトランス等が発生しており、関係法に基づき各事業所が廃棄するものとされているが、一般管理費予算の削減により当初予算に必要経費を盛り込むことができないまま今日に至っていることから、管理上の問題が発生する前に対処することとする。

なお、廃棄については処理施設の能力により順番を待っている状態であり、平成 25 年度においては 3 支所 840 万円を予定している。

2 人事給与システムの更新

現在のシステムは、既に導入から 7 年以上が経過しソフトのサポートが望めないことに加え、使用しているコンピューターの XP のサポート終了もあり、速やかに更新する必要があるが、一般管理費予算の削減により当初予算に必要経費を盛り込むことができていないことから、システムトラブルが発生する前に新たなシステムに移行することとする。

3 老朽施設の取り壊し

研究の終了等により実質的に今後の使用が見込まれない固定資産については、財産管理上も計画的に取り壊しを進める必要があるほか、老朽化により事故が発生するおそれのあるものもあるが、一般管理費予算の削減により当初予算に必要経費を盛り込むことができず、倒壊等のリスクが高い建物を優先して取り壊すこととする。

4 業務用パソコン (WindowsXP 対応) 更新

平成 26 年 4 月において、パーソナルコンピューター XP のサポート期間が終了するが、財政事情が厳しいことから更新できなかったものについて更新を行う。

研究職員公募一覧表(平成25年10月)

応募 No	試験研究機関名	配属研究領域等	待 遇	研究課題名	研究内容	応募条件等
1	森林総合研究所	気象環境研究領域	研究職員 独立行政法人森林総合研究所職員給与規程に基づき決定	海岸林等森林の持つ多様な防災機能の発揮に関する技術開発	海岸林の持つ多様な防災機能を物理現象として解明し、東北地方太平洋沖地震津波による被災海岸林の再生、ならびに今後津波被害が予想される海岸林の整備に関する要請に対応した、新たな海岸林管理技術を開発する。	①平成25年10月1日現在で博士の学位を有する者 ②全国規模の転勤が可能な者 ③森林学、砂防学に関する基礎的知識を持ち、森林に関する物理現象の野外測定・解析技術を持つ者 ④コンピュータープログラミングの技術を持ち、森林の防災機能に関する野外調査研究実績を有する者 ⑤勤務地:本所(つくば市)
2	森林総合研究所	複合材料研究領域	研究職員 独立行政法人森林総合研究所職員給与規程に基づき決定	木材用接着剤の耐久性評価手法の開発	公共建築物等の木造化の促進が期待される中、大型木造建築物に利用可能な新たな木質構造用パネルとして、直交集成板(CLT)の開発が急務となっている。このため、CLTに最適な接着剤の性能評価技術を開発する。	①平成25年10月1日現在で博士の学位を有する者 ②木材用接着剤の特性解明、木質材料の接着耐久性評価及び揮発性有機化合物(VOC)の放散特性の解明に関する専門知識を有するもの。 ③勤務地:本所(つくば市)
3	森林総合研究所	北海道支所	研究職員 独立行政法人森林総合研究所職員給与規程に基づき決定	北方育成天然林及び人工林の持続的利用技術の開発	北方育成天然林および人工林について、公益的機能に配慮しつつ、森林資源を経済的かつ資源的にも持続的利用するための手法を開発する。	①平成25年10月1日現在で博士の学位を有する者 ②全国規模の転勤が可能な者 ③森林更新ならびに持続的な森林管理の研究実績を有する者。 ④勤務地:北海道支所(札幌市)

※上記応募No.1から3は、任期の定めのない職員として募集する。

平成25年10月採用 研究職員募集のお知らせ

独立行政法人森林総合研究所では、下記のとおり研究職員の募集を行います。
今回の採用予定数、応募条件、選考方法等は下記のとおりです。
なお、森林総合研究所では男女共同参画を推進しています。女性研究者の積極的な応募をお待ちしています。

記

- 1 採用予定数 3名
- 2 採用予定の試験研究機関名、各配属研究領域・待遇、研究業務内容
別表「研究職員公募一覧」のとおり
- 3 応募条件
 - (1) 博士の学位を有する者又は取得予定者（採用予定日までに学位取得可能な者）
 - (2) 試験研究職員として特別な知識、能力又は技術を有する者
別表「研究職員公募一覧」の研究内容のとおり
- 4 採用試験の欠格事項
次の各号のいずれかに該当する者は、採用試験を受けることができない。
 - 一 成年被後見人又は被保佐人
 - 二 禁錮以上の刑に処せられ、その執行を終わるまで又は執行を受けることがなくなるまでの者
 - 三 懲戒免職又はこれに相当する処分を受け、当該処分の日から2年を経過しない者
 - 四 日本の国籍を有しない者のうち、次のいずれかに該当する者
 - ア 採用後に従事することとなる職務を遂行するために必要な在留資格（出入国管理及び難民認定法第2条の2の規定による在留資格をいう。）を有しない者
 - イ 日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法に定める特別永住者でない者（採用後に従事することとなる職務を遂行するために必要な在留資格を有する者を除く。）
- 5 提出書類
 - (1) 履歴書（市販のJIS様式又はこれに準拠するもの。高等学校卒業以降を記入）
注1）メールアドレスがあれば必ず記載してください。また、顔写真は必ず添付してください。
 - 2）森林総合研究所では次世代育成支援を推進しています。育児又は介護による研究中断期間のある方は、性別にかかわらず履歴書にご記入ください。
 - (2) 学位授与証明書又は修了見込証明書
 - (3) 研究業績目録（森林総合研究所HPに掲載の書式又はこれに準拠して、主たる研究業績の背景、方法、成果及び評価の解説を付記すること）
森林総合研究所採用情報HPアドレス：
<http://www.ffpri.affrc.go.jp/saiyou/index.html>
 - (4) 主要論文3報のコピー各1部（A4版）
 - (5) 研究を行うに当たっての抱負（A4版1枚程度）1部
 - (6) 応募者についての意見を求め得る方2名の氏名、所属と連絡先電話番号
 - (7) 宿舍貸与希望の有無（希望する場合は、独身・単身・世帯を明記すること）
- 6 応募書類の提出先
封筒に朱書きで「研究職員選考採用応募書類在中」と「応募 No.」（研究職員公募一覧を参照）を必ず明記のうえ、下記まで送付のこと。なお、提出された書類は返送致しませんのでご了承ください。
<送付先> 〒305-8687 茨城県つくば市松の里1
独立行政法人 森林総合研究所 総務部 総務課 人事係
- 7 応募締切
平成25年9月6日（金）（必着・締切日厳守）

8 選考採用試験

- (1) 書類審査 平成25年9月中旬
- (2) 面接試験 平成25年9月中旬

9 採用時期

平成25年10月1日

10 給与

独立行政法人森林総合研究所職員給与規程に基づき支給
(上記のほか支給要件を満たす場合、扶養、地域、住居、通勤、期末・勤勉手当等あり)

11 その他

- ・年金・健康保険については共済組合制度加入
- ・選考に際して発生する旅費・宿泊費等は、応募者の自己負担とする。
- ・応募書類は返却しない。なお、記載されている個人情報については、本採用事案以外使用しない。

12 問い合わせ先

〒305-8687 茨城県つくば市松の里1

独立行政法人森林総合研究所 総務部総務課

海老原(課長補佐)・山本(人事係長)

Tel : 029-829-8155 又は 029-829-8156

E-Mail : jinji@ffpri.affrc.go.jp

主要行事(2013年7月4日～2013年8月6日)

月 日	行 事 内 容	出 席 者
7月4日(木)	第3回理事会	理事長、各理事、両監事
10日(水)	独立行政法人森林総合研究所と関東森林管理局との二ホンジカ被害対策に係る協定調印式 林木育種技術戦略委員会	理事長 林木育種センター所長
10日(水) ～15日(月)	第1回小笠原諸島世界自然遺産地域・科学委員会	研究担当理事
11日(木)	農林水産技術会議事務局長視察 特別講演「林業再生への挑戦～大型木造建築・広がる木の可能性～」	理事長 企画・総務担当理事
13日(土)	日本農学アカデミー理事会	理事長
16日(火)	新任監査役のための説明会	西田監事
18日(木)	公開シンポジウム 私たちの暮らしと森林・木材の放射能 ー森林総研が解き明かすその実態と今後ー	理事長、企画・総務担当理事、研究担当理事、林木育種センター所長、事業承継円滑化・適正化担当理事、両監事
22日(月)	林野分科会ワーキング会合	理事長、各理事、両監事
23日(火) ～26日(金)	中国四国整備局・松山水源林整備事務所監事監査	滑志田監事
24日(水)	林野庁との打合せ	企画・総務担当理事
25日(木)	林野庁整備課造林間伐対策室長視察	林木育種センター所長
25日(木) ～26日(金)	農協種菌品質管理委員会	理事長
26日(金)	つくば中央警察署との意見交換(情報セキュリティ関係)	企画・総務担当理事
29日(月)	第2回事業運営会議 関東森林管理局森林整備部長視察 関東森林管理局森林整備部長来所(林木育種センター)	理事長、企画・総務担当理事、森林農地整備センター所長、業務承継円滑化・適正化担当理事、滑志田監事 研究担当理事 林木育種センター所長
30日(火)	第1回自然再生専門家会議 日本樹木医会会長との打合せ	理事長 理事長
31日(金)	林野庁森林整備部研究指導課長視察	理事長、企画・総務担当理事、研究担当理事
8月1日(木)	第24回環境研究機関連絡会	理事長
2日(金)	林野庁森林整備部研究指導課長視察	林木育種センター所長
4日(日) ～6日(火)	第21回国際木材機械加工セミナー	研究担当理事
5日(月)	庁議 林野庁との打合せ	理事長 理事長、企画・総務担当理事
5日(月) ～7日(水)	サイエンスキャンプ2013	理事長(5日、7日)、企画・総務担当理事(5～7日)、研究担当理事(5～7日)
5日(月) ～6日(火)	四国支所監事監査	両監事

※森林農地整備センター所長は森林業務担当理事が、また林木育種センター所長は育種事業・森林バイオ担当理事がそれぞれ担当している。